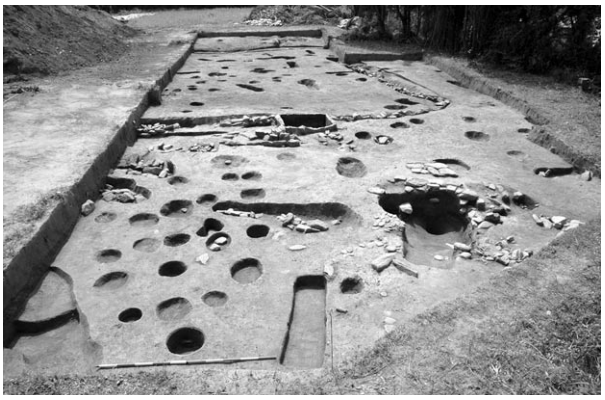
上ノ郷城跡から発掘された遺構や出土品

これまでの調査で判明した特長的な遺構や出土品のいくつかをご紹介します。



今年6月に行われた調査

世城郭でも出土例があります。湧き水などをうまく利用したと思われます。『諸国古城図』（広島市立中央図書館浅野文庫蔵）に描かれている位置とほぼ同じです。

■排水溝などの石組

城跡からは、多くの石組みや石垣列が検出されています。当時の土木技術は、石をうまく利用したり、土を突き固めたりすることで強固な構築物としていたことが伺えます。

石が詰まった排水溝

■柱穴の盃（さかずき）

柱穴の何カ所かで、底から小皿の盃がほぼ完全な形のまま見つかりました。建物をたてるときに地鎮祭のような儀式が行われていたのではと推測されています。

■井戸

検出された井戸は、直径約1m60㎝、深さは約1m20㎝です。このような浅い井戸は、他地域の中

■特別な建物

主郭の西端では、大きな石を使って、地盤を一段と高くした建物跡が見つかりました。

西端で検出された特別な建物と推測される遺構

柱基礎の様相からすると建物の規模も他と比べ大きかったと考えられています。全くの想像ですが、後の天守閣につながるような特別な建物であったかもしれませんし、また物見台であった可能性もあります。残念ながら発見箇所から西の部分は、昭和の時代に土取りで削られており、全貌（ぜんぼう）は確認できません。

■火縄銃の弾丸

鉄砲の弾丸1個が出土しました。鉛製で、直径13㎜、重さは約20ｇです。この弾丸は、上ノ郷城合戦のときに使われたものではと推測されています。

発掘調査で鉄砲の弾丸が見つかるのは珍しいことです。

火縄銃の弾丸

■重ね置かれて出土した盃

今年6月の調査では、約30枚の小皿の盃（径7～10㎝前後）が、1枚ずつ積み置かれた状態で出土しました。その四隅には石を置き、結界がつくられていました。武将の結束を固めるための儀式に使われたのではと考えられており、当時の武将たちの慣習の一端が伺われます。

このような状態で出土したのは、全国的にも大変珍しく注目されています。仮に、落城時に鵜殿一族の幹部武将たちが飲みほしたものとするならば、長照たちの無念さが伝わってきます。